

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2875001501		
法人名	医療法人社団 恕和会		
事業所名	カルム箕谷		
所在地	神戸市北区山田町下谷上字かんじや7番3号		
自己評価作成日	平成28年 10 月 25 日	評価結果市町村受理日	平成 29 年 2 月 17 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai-go-kouhyou-hyogo.jp
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104
訪問調査日	2016年 12月 12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○入居者一人一人に合わせた生活スタイルで、安全・安楽に過ごしていただけるように、個別のケアを重視しています。
 ○医療面では母体である松田病院、併設して訪問看護ステーションと連携し合い、日々の体調管理や病状の把握、異変の早期発見、急変時の早期対応が行える体制をとっています。
 ○季節ごとの行事を大切にしており、季節を五感を通して楽しんでいただけるようにしています。また、自治会で開催される行事にも参加し、地域住民との交流を積極的に行っております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年度の下期から法人の体制が変わった結果、事業所が目指す医療連携の柱が太くなり、入居者のみならず職員にとっても、将来の展望は明るいと言える。併設されているデイサービスで開催されるイベントでは、地域住民と利用者が交流する機会が多く、運営推進会議には地区の自治会長や民生委員も出席し、地域における事業所の認知度も上がってきた。事業所の理念である「安心して明るく入居者が持つ固有の機能を大切にー自分らしく」が実践されている様子は、利用者の表情から窺い知る事が出来る。下期から始まった人事考課システムでは、職員の自己評価と共に、「職務上抱えている問題」、「やってみたい事」、「受講したい研修」などの記載欄を設けている。この新しいシステムで職員のモチベーションが更に高まり、医療連携を目指した質の高いケアが実現する事に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者三	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「本来持っている固有の機能を大切に、できるだけ自分らしく過ごせるように援助する」を理念に掲げ、それに基づいた介護計画書を作成して実践に当たっている。	理念に基づいた「行動指針」を定めて、事業所内に掲示するとともに、カンファレンスの都度、確認と振り返りをしながら周知に努めている。内容について、契約時に利用者と家族に説明している。利用者がピアノの弾き語りをするのに合わせて、入居者が合唱する姿に、ケアに実践されている様子が分かる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のふれあい喫茶や夏祭りに参加し地域住民との交流の機会を持つことができた。また、近くのスーパーやコンビニへ買い物に行き、町並みの変化を感じ、地域の一員として生活している。	事業所として自治会に加入しているため、回覧板で地区情報を知ることが出来る。近隣は旧くからの住宅地であるが、散歩の際に住民と挨拶を交わすことで、地区に認知されて来ていると感じている。事業所主催の夏祭りなどには、近隣からの参加者も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議において当施設が実践している認知症ケアについて一部ではあるが報告する機会があった。また、こういうときはどうしたら良いのか等ご家族より質問があったときにその都度説明し理解をもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において入居者の日々の様子をスライドショーで紹介している。施設についての質問や意見、提案、助言などをいただく時間を毎回2～30分取り、そこで上がった意見や提案を運営やサービスに取り入れるよう検討している。	利用者、家族、自治会長、民生委員、地域包括、元社協要職者が出席して、隔月に開催している。災害発生時の準備・確認や、職員のストレス解消の勧めなど、アドバイスを貰い実行している。議事録を玄関に掲示しているが、家族宛に送っていない。	毎月の請求書発行時に議事録を同封することによって、内容の報告をする傍ら、会への出席を依頼されたらどうだろうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度、実地指導を受け、ご指摘いただいた部分は改善し、その旨の報告も行った。施設の申し送り等は高い評価をいただき、今後もよいところは継続し、悪いところは改善し、よりよい施設となるように見直す機会をいただいた。	市から実地指導を受け、改善する過程で以前より関係性が密になった。地区の連絡会に6事業所が参加して情報交換を行っている。連絡会に行政からの参加は無い。	運営推進会議の議事録や事業所主催の催し物の案内を持参するなど、市との関係性を深め、来訪も依頼したらどうだろうか。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、施設外研修に参加した者を中心に、年に1回は施設全体で施設内研修を行っている。各部署で時間をかけて取り組み、高い意識を持ってケアに臨めるよう日々注意喚起している。	行動指針の1つである「行動を束縛しない」を実践して、玄関の施錠は夜間のみとし、エレベーターの乗降も自由である。独りで離床することが事故につながる利用者があり、昼夜ともセンサーマットを使用している。常態化しない様にケアカンファレンスで確認し合っている。	今後とも、常態化を防ぐためにも記録の整備とともに、継続して検討していただくことを期待したい。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、全員参加で研修を行っている。現場では事例を上げ、掘り下げて事案を検討し、チームで行うケアについて追求し、プロとしての自覚を持ってケアに当たっている。	法人内や外部の研修で学び、特に心理的虐待のグレイゾーンに該当する接遇について、職員間で振り返っている。事業所としては丁寧言葉で話すことを基本としているが、慣れに甘えた言葉遣いや、不適切なトーンの声で接することが有り、その都度注意している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症介護実践者研修で権利擁護、成年後見人制度の指導が受けられるので、毎年順番に受講していたが今年は選考に漏れ受けることができなかった。成年後見制度を利用している入居者がいたため、職員が保佐人と話す機会は多々あった。	成年後見制度について、契約時に特段の説明はしていないし、資料も準備していない。家族会でも制度についての情報提供をしたことが無い。外部研修を受講した職員はいるが、職員全体の知識レベルは高くはない。	職員が持つ知識は制度の概要だけで良いので、資料を準備して勉強会を開かれたらどうだろうか。その後、家族会での情報発信も検討頂きたい。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の改定や見直しは随時実施しており、その都度、ご家族に説明し、了承の下サインしていただいている。	契約時の説明で質問が多いのは、費用面、どの程度の範囲までケアをしてくれるかや退去条件などであり、丁寧に説明して納得の上の契約となっている。救急搬送時や重度化した際の事業所として出来る範囲は、口頭で説明している。	救急搬送時や看取り期に入った場合の延命措置に関する希望の確認と、事業所として出来る範囲についての説明は、出来れば契約時点から文書で交わし、以降更新する方向で検討頂きたい。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議においてご家族の意見を伺い、質疑応答の内容を議事録に残している。また、面会時にはご家族の要望や意見をその都度伺い、ケア記録に残して周知している。	家族会を年2回開く中で、質問や希望を聴く時間を設けている。介護保険の改訂内容や費用面での質問が多く、運営に反映させるような意見は出ていない。開設以来、利用者や家族を対象にした「満足度調査」の様なアンケートは特に行っていない。	開設10年を経たことを節目に、アンケートを取られたらどうだろうか。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のユニットミーティングだけでなく、日々、職員の意見を聞き取る場は設けている。上がった意見等は	職員からは、意見が言い易い職場であるとの声が上がっている。手の荒れを防ぐために、石鹸を変えたり手袋の素材を吟味したりと、反映されている事は多い。今年度の下期から始まった新しい人事考課や、職員の希望を聴く姿勢に今後期待される。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	吸収合併により母体が変わったため、今後については不明です。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常勤、非常勤とも施設内外の研修を受けられる体制の確保に努めている。スキルアップについても、順次勤めており、介護福祉士の取得に向け、向上心を持ってもらっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	神戸市主催の実践者研修、リーダー研修、地域のあんしんすこやかセンター主催の地域会等に必要時に応募して、地域住民や同業者との交流・ネットワーク作りの場としている。			

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時に聞き取りを行い、不安や要望等について現場職員にも情報を流し、安心できる環境を整える準備を行っている。受け入れ態勢を整えることと、傾聴に時間を割くことにより少しずつでも信頼関係が築けるよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族と本人の気持ちが相違することもあり、認知症により理解できない事柄もあることから、気持ちを尊重しながら、ご家族と本人の思いを最大限に取り入れることができるよう配慮する旨をお伝えし、時間をかけて信頼関係を築けるようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の情報と新しく得た情報を細かく分析し、アセスメントを繰り返して、今必要なサービスをチームで検討し実践している。不具合があればその都度練り直し、最適なサービスが提供できるよう努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者にはその方の身体状況に応じて、できる範囲で役割を持っていただいている。たとえば、洗濯係や食事の盛り付け係、掃除係など。 入居前にもされていたことや、されていたと思われることを事前のアセスメントの情報をもとに個々の身体状況に合わせて行っている。作業を強制することなく、全て、入居者・家族の了承を得て作業をしていただいている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が家族を思う気持ち、家族が本人を思う気持ちを優先している。例えば、行事で外出があるときなどはご家族の参加も呼びかけ、共に過ごす時間を大切にしている。仕事が忙しく、あまり面会できないご家族については、お気持ちを本人に伝えたり、他の面で協力を願っている。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	友人との面会等は家族同様規制はなく、自由に面会ができる。併設のデイサービスでのご友人が面会に来てくださることもある。どうしても入所前のご自宅に帰りたいという希望があれば、できる範囲で付き添って実現している。ご家族にお願いすることもある。	面会の時間帯に制限は設けていない。併設しているデイサービスから友人が訪ねて来る事も有る。デイサービスの協力で、送迎車と運転手を借り、車椅子利用者も一緒に出掛ける事が出来る。毎年、淡路島に渡って観覧車からの海の眺めを楽しみ、年末にはルミナリエ見物が恒例となっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフルーム、台所から入居者の様子が一望できるようになっている。常に見守りを行い、入居者同士の関係性を把握し、席順や職員の介入など良好な関係を保てるよう、思案している。			
22			○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居の場合は今後何かあればいつでも相談に乗る旨をお伝えしている。サービス終了が死亡の場合はできる限り通夜式に参列し、故人とのお別れをご家族とともに悼んでいる。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの作成、更新時には個人の希望、要望からニーズを導き出すためにカンファレンスにて職員の気づきも併せもって精査している。言葉では出ない思いも察することができるよう日々入居者を観察している。	発語が困難な利用者の場合は、表情から想いを汲み取ったり、入居前の暮らしぶりや趣味をフェイスシートで確認しながらケアをしている。利用者とのコミュニケーションが巧みな職員からの情報を共有することによって、同じレベルのケアを実現する様に努めている。		
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の情報は計画を作るために不可欠であるため、本人を初め担当ケアマネジャーやご家族より情報を収集し、計画に活かしている。職員全員が周知できるよう、回覧している。			
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	パソコンで個々の記録を24時間記録している。普段できないことができたり、促し方によってできることがあったり、本人がどう言ったかなど、感じ取ったこともすべて記録し、業務日誌や申し送りで情報を共有している。			
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の介護計画を定期的に見直ししており、その都度、個別のカンファレンスを開催している。カンファレンスには職員や家族、関係者が同席し、現状の状況報告と今後の介護方法について話し合っている。その会議で話し合った事項を次の介護計画に盛り込み、作成をしている。	各フロアのリーダーの下に、全職員がフロアの全利用者をケアする体制を採っている。担当者会議の開催に当たっては、参加出来ない職員もモニタリング意見を提出する。介護計画は半年毎に作成し、来訪機会が少ない家族には郵送した後、電話で説明を加えて納得を得ている。		
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	パソコンに日々の様子は細かく入力している。記録を参考にカンファレンスやミーティングにも活用している。会議にはケアマネが必ず出席し、その場で上がった問題点やそれに対する改善点を個々の介護計画に盛り込んでいる。			

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の望まれるサービスや、希望する行事等が柔軟に行えるように、業務ごとのリーダーを決め、意見の抽出に努めている。 今までやったことのない事や行事を積極的に取り入れることで、マンリ化しないよう企画をしている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のふれあい喫茶への参加やお祭りなど、周辺地域の行事にはなるべく参加している。 また生活共同組合コープこうべサポートセンターを活用し、地域のボランティアを積極的に受け入れるようにしている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	何も希望がなければ従来通り松田病院へ職員が付き添って受診している。眼科や精神科、皮膚科等は本人、家族の希望があれば希望の医療機関へ行っていただいているが、付き添いできない場合は職員が同行している。(付き添いサービスにて)。	利用者、家族の意向を優先しているが、現在は、ほとんどが協力医療機関を主治医としている。基本は職員が付き添い、歩行が困難な場合は往診も可能である。協力医療機関で対応できない他科受診の場合は、家族の付き添いとしている。心療内科での服薬調整等の相談にも応じるなど、医療面における安心できる体制を整えている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の訪問看護ステーションに担当の看護師が配置されていて、日々の様子を報告し、異常があれば医療機関に速やかに連携を取って対応してもらっている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを作成し病院へ提出している。入院後は入院先の担当の医師や、地域医療連携室の担当者と直接連絡を取り合い、状況を把握すると共に、本人の容態を確認する為に面会に行き、担当者とも直接会って情報を交換できるようにしている。退院時には看護サマリーを通じ、情報を共有するようにしている。	利用者の普段の様子観察、些細な状態変化に注意している。状態変化時の看護師による迅速な対応が、重篤化を防ぎ、早期発見ともなっている。入院となった場合も、利用者、家族の意向を受け、可能な限り早期退院につないでいる。医療関係者との情報交換を密に図り、利用者、家族が安心できる環境を用意している。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体状況が里馬になつたり、その可能性が出てきた段階で、家族との話し合いの場を設け、入院や転居、ターミナルケアの実施、延命について等、今後の方向について検討している。その際、当施設で対応可能な範囲を明確に説明し、家族にも理解していただいている。	今年に入り、2名を看取った。家族が共に過ごせる時間を多く持てるよう、居室で休んでもらったり、いつでも来てもらえよう雰囲気づくりを大切にしたい。家族の不安を無くし、利用者がさみしくないよう、職員は見守りに努めた。運営推進会議や家族会で報告し、参考にしようとも共有を図った。今後は、家族への意向確認を検討している。	

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応はインシデント・アクシデントの報告書をもとに対応方法を検討し、全職員に周知している。また、転倒時あるいは、容体急変時における対応・処置については、「入居者救急時対応手順」を作成し、介護現場に掲示している。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。避難誘導や避難経路も実際に入居者に移動してもらい、全職員が周知できるようにしている。地域の消防局からは訓練用の消火器のレンタルや、消防機器の点検等で定期的に視察を受けている。	この8月に夜間想定での避難訓練を行った。職員は利用者と共に実践に即した避難経路を確認した。車イスの利用者が増えており、夜間の対応が課題である。運営推進会議でも、常々地域との連携を呼びかけており、今後、協力体制の具体化に向けた検討を考えている。	まずは、実際の避難訓練の現場を見学してもらい、アドバイスを得られてはどうだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(18) ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「尊厳を大切にする」は当施設の行動指針にも上がっている。誇りやプライバシーを尊重することは職員の接遇においても重要であり、適切なお声掛け、対応ができるよう、ミーティング時や何かあるたびに職員間で話し合い、見直している。	職員は、主に高齢者虐待の中で学んでいる。日常のケアの中で、大きな声を出さない、羞恥心への配慮など、繰り返し学ぶことで意識定着を図っている。人はそれぞれ様々な考え方があることを前提に、利用者一人ひとりの考えや意向を大事にすることを、職員に常々伝えている。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉だけでなく表情にもその人の気持ちは表れるので、普段から注意深く様子を観察し、気付いたときには思いを表現しやすい環境を整えるように配慮している。状態により自己決定できるレベルは異なるが、できる限り個々の意思を尊重している。		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の基本的な流れはあるが、個々の状態を尊重し、型にはめず、できる限り希望が叶うように支援している。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身にて身だしなみやおしゃれが可能な方はお任せしているが、季節感が違っていたり不都合があれば自尊心を傷つけないよう、変更を促している。なかなか自分で決められない方には二者択一で選択してもらったり、毎日同じ洋服にならないように配慮している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は湯煎タイプの食事となっているため、ふだんは調理自体はあまり機会がないが、盛り付けやおやつ作り、アクティビティとしての簡単な食事作りは一緒に手伝っていただいている。他の入居者のために食事を準備するなど、役割を持つことで生活に張りが出ればと思っている。	業者委託で、ごはん、汁物は、事業所で作っている。利用者から事前に食べたい物を挙げてもらい、リクエストメニューを利用者も一緒に手作りすることもある。買物と一緒に行くこともあり、利用者自身が役割を持って準備や後片付けに携わっている。お誕生日には、その人の好みのメニューが出され、クリスマスには手作りケーキを囲んで楽しむ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合った食事の提供を心がけている。体重管理の為、白米に雑穀を混ぜる、嚥下状態に合わせた食事形態等。水分量に関しては、脱水にならないよう、小まめに提供している。一日の目標は1000cc。なかなか水分を飲料で摂れない方にはゼリーや果物などで対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立の方はお声掛け、方法を間違え方、不十分な方は見守り、自身でできない方は介助等、個々にあった援助を行っている。訪問歯科による専門的なケアも定期的に行っている。普段のお手入れの仕方も伝授していただき、日々のケアに生かしている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間排泄チェック表を記録し、個々の排泄パターンの把握に努めている。現状維持もしくは改善を目的に、事前にトイレ誘導するなどの支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声かけや誘導を行っている。現在自立の人が比較的多く、布パンツ或いは失敗の不安によりリハビリパンツを使用している。普段はトイレで排泄し、夜間のみおむつを使用している人もいる。失敗した場合、職員は周りに配慮しながら、さりげなく誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間排泄チェック表に排便の日数についても記録し管理している。水分摂取量も便秘の原因の1つであるため、一緒に記録しており、少ない方には水分を促すようにしている。ヨーグルトなど排便を促す食事の提供や、規則正しい生活や運動等も行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	それぞれの希望に沿った予定表を作成しているが、必ずというものではなく、柔軟に対応している。体調不良や気分、外出等で入浴できないときは翌日や前日など、本人の意見も聞いて変更している。1日に3名入浴予定者がいるときはその中で話し合っ決めてもらうこともある。	週2～3回の割合で入浴している人が多いが、その時の希望を優先し、入りたい時に入ってもらっている。職員が誘ったり、声かけするが、困難な場合は拒否の原因を見極め、声かけのタイミングや時間をずらすなどして対応している。ほとんどは同性介助で対応し、中には職員との会話を楽しみに、ゆっくり長風呂することもある。入浴剤や季節風呂で、気分を変えて楽しんでもらっている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならず夜に安眠できるように、日中は適度な運動と適度な休息を取ってもらっている。人によって違うため、様子を見て声かけをしている。照明や室内温度にも気を配り、個々にあった環境づくりをしている。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	基本的な情報は職員間で周知しているが、薬剤に関しては全般的に薬局に業務委託している。現場では薬情をいつでも確認できる場所に整備している。入居者の状態については日々職員が観察を行い、新しい薬が始まったときには変化を細かく記録して、併設の訪問看護ステーションの看護師に報告し、医療機関連携のもと調整してもらっている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションは入居者の趣味嗜好に合わせて外出や行事、日中かけている音楽に至るまで、個々の嗜好に合わせている。又、日常の職員が行う業務(調理や掃除、洗濯等)を入居者の身体状況に考慮して、できる範囲で役割分担をして作業をしている。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	普段は買い物等の希望があれば、その都度対応している。 遠方への外出がある場合には、第一に入居者の希望を募り、行き先を決定し、同時に家族にも連絡をして家族の参加の希望を募っています。 家族参加の場合は、家族にも介助等の協力を依頼するなど、職員・入居者に家族も加わり楽しい思い出づくりを支援している。	利用者からの要望で衣服や食べ物を買に行ったり、喫茶店でお茶をしたり、個々の希望で外食に行くこともある。時には小グループで大規模ショッピングモールに行って食事を楽しむ。桜の季節には、家族の協力を得て一緒に花見を楽しんだり、家族と共に自宅にもどり、しばらく過ごすこともある。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身で管理できる方には所持していただいている。物盗られ妄想や不安症などのある入居者についてはご家族の希望もあり見合わせているが、買い物に出かけた際は支払う		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも利用できることをお伝えしており、実際に電話をかけたり、ご自身で携帯電話を持っておられることもあり、自由にご家族と連絡が取れるようにしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価		
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52		(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、落ち着ける場所となるよう配慮している。居間兼食堂は、壁には写真、テーブルには季節の花(敷地内の花)、テレビを囲んで会話が弾むようにセッティングしており、毎日の換気や室温の調整も欠かさず行っている。居間から庭へ出るとテーブルがあり、天気の良い日には日光浴も兼ねてお茶を楽しみ、季節を感じていただいている。	リビングは、利用者の好みや状態に応じて食卓テーブルが配置され、好きなテレビを観たり、おしゃべりしている。雑誌等様々なジャンルの本が置かれ、いつでも目を通せる。又気に入った曲を聴くこともでき、職員が個々に対応している。ゆったりしたテラスがあり、気候のいい時期は、外で食事ができる。		
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間兼食堂の座席は日ごろの入居者の関係性を鑑み、ある程度は固定にしているが、状況によっては椅子を動かして行きたいところへ自由に移動してもらっている。その他にもソファ、ベンチを随所に設置し、気の向くままに使っていただいている。			
54		(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた家具や思い出のある物など、ご本人やご家族の馴染みのものを持ち込んでいただき、自然に生活していただけるよう配慮している。	ベッド、洗面台が常設され、その他入居時に希望があれば、小型のチェストを借りることができる。利用者は、これまで使っていた整理箱や椅子、テーブルを持ち込んでいる。ハンガーラックには、好みの洋服等が掛けられ、その日の気分で着たい物を選んで着ている。その人らしい暮らしづくりがうかがわれる。		
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室やトイレなど、行き易いよう張り紙をしたり、トイレ内の手洗いや諸動作についても説明書きを添え、1つのきっかけがあれば自身でできるように促す環境を心がけている。			